

委員会名	2024年度第2回 生産技術委員会
開催日時	2024年7月3日 15:00-17:50
開催場所	INPEX 会議室(Teams ハイブリッド開催)
出席者 (敬称略)	(現地)飯野、池田、今井、知識、中島、舟橋、矢島、山崎、山田、村上、荒木、谷口、根本 (オンライン)阿部、大内、城戸、久々宇、小林、佐藤、菅井、中田、松山、椋平、岡野
議事	<p>1. 事務報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 委員の交替 <ul style="list-style-type: none"> ・今般、退任や就任された委員の方を紹介し、一言ずつ挨拶を頂戴した。 ・INPEX 安達氏が退任し、山田委員が新たに就任した。 ・MOECO 上野氏が退任し、池田委員が新たに就任した。 ・関東天然瓦斯開発村井氏が退任し、松山委員が新たに就任した。 ・CMG 今井委員が新たに就任した。 ・JAPEX 桐山氏が退任した (CCS 委員に就任)。 ● 活動方針確認 <ul style="list-style-type: none"> ・2024年度の活動方針案を運営幹事から提示し、各委員からの意見を募った。 <p>2. 幹事会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識委員より幹事会議事概要 (第89期2回および第3回) が報告された。 ・内容は第89期第3回幹事会議事資料_20240613.pdf および第89期第3回幹事会議事議事録 (案) .docx (資料2) を参照のこと。 <p>Q&A</p> <p>(谷口委員) 事務局への負担が大きく、業務の見直しは喫緊の課題と見受けている。法人化は話になっているか？</p> <p>→ (知識委員) : 今回の幹事会では議論は出なかった。事務局負担の軽減は派遣社員を雇う事で対応する事を考えており、人員確保後に法人化の件も検討していく予定。</p> <p>→ (城戸委員) : 理事会の方で法人化チームが出来上がった。</p> <p>3. 理事会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所用で理事会を欠席した村上委員長に代わり、荒木委員より理事会での議事を報告。 ・内容は第2回理事会資料_20240613.pdf (資料5) を参照のこと。 <p>4. 2024年春季講演会シンポジウム振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山崎委員より、アンケートを基にしたシンポジウムの振り返りが行われた。その後、各委員からも L&L や振り返りコメントを募った。 ・会場参加者 150 名 (アンケート回答 28 名)、オンライン参加者 (アンケート回答 2 名) という回答率。 ・良かった点は以下 <ul style="list-style-type: none"> - CCS の歴史から実プロジェクトまで広範囲なテーマをカバーしており、自分の業務に対しても参考になった。 - RITE 秋元氏のテーマが広範囲の内容にわたっており、複数の方から評判が良かった。 - 地熱事業での PA が紹介されており、CCS を進めていく上で参考になった。

- ・要改善点は以下
 - パネルディスカッションで議論が発散してしまった。
 - 会場間の移動が大変だった。伊藤国際の電波状況が良くなかった。
- ・来年に向けたまとめと所感
 - 地熱と Low carbon 系に興味が向いている。
 - 今回 CCS 委員会とも共催になったが、テーマの決定まで時間があまりなかった事が運営側で難しかった点。
 - アンケートの QR コードを投影するのみでは時間が十分でなかったかもしれないので、紙に印刷して机に貼って置く等の対策が考えられる。
- ・本集計結果は CCS 委員会へも共有される。

Q&A

- ・（飯野委員）アンケートそのものを紙で印刷しておくのも一案。
→（矢島委員）壁に貼れない等の会場の条件もあるため、アンケート自体を配布する案は有効だと思う。
- ・（根本委員）本アンケートは幹事会や理事会へは共有されるか？
→（山崎委員）CCS 委員会にも共有するし、他への共有は問題ない。
- （知識委員）事務局の方で、各社から講演会・シンポジウムの L&L を取りまとめているので情報共有すると良いと思われる。
- ・（中島委員）CCS 委員会でもシンポジウムの話題が出たが、単独で開催するのは現実的ではなく、来年度も他の委員会との共催が現実的という意見があった。
→（村上委員長）CCS 委員会の横串的側面を活かして、例えば複数の委員会によるシンポジウムの共催は考えられないか。
→（山崎委員）全く問題ないと思われるし、今後来年に向けて前広に準備をする中で選択肢になりえる。
- ・（荒木委員）CCS 委員会の方で学生優秀発表表彰を選考し、シンポジウムで表彰するという仕組みが出来上がる様に打ち合わせた方が良い。
→（矢島委員）今年は探鉱・作井各委員会で CCS 関連の発表が評価される仕組みになっていなかった懸念がある。
- ・企業ブースについて、協賛金はリーズナブルという意見もある一方、学生の来訪数が少なく、リクルートの場としてはコスト効果が低いという声もあった。周知の問題か、コンテンツの問題か。
- ・（谷口委員）パネルディスカッションで学生からの声があると興味が惹けるかもしれない。

5. 2024 年春季講演会シンポジウム原稿査読の進め方

谷口委員より、シンポジウム原稿査読の進め方が説明された。11 月発刊の 9 号に掲載される。スケジュールとしては原稿締め切りを 9/9 としており、10/10 に査読済み原稿を会誌編集委員会へ送付する。その間に、複数回の査読と著者による修正のラリーが予想される。査読の際の要綱は JAPT ホームページに記載されている通り。また、資料 4 に含まれるワードファイルでも査読時の着眼点について説明されているのでご参照のこと。

<https://www.japt.org/gyouji/ronbun/youkou/>

査読者候補の方にお伝えしたい点としては以下の通り。

- ・原稿著者に査読者が知られる事はない。
- ・講演原稿の提出や査読結果の返答は Scholar one というオンラインシステムを使う。
- ・査読者は後日メールベースで依頼する。これまで査読を行っていない方、学生講評をやっていない方を中心に負担が偏らない様に選定する。

また、岡野編集委員が臨時参加し、シンポジウム原稿の取り扱いについて説明した。

- ・会誌編集委員からは各部門の技術委員会担当委員を窓口として立てる。
- ・各部門の技術委員会からは、会誌編集小委員（いわゆる原稿担当者）が窓口として、編集委員会の担当委員、原稿著者や査読者とのやり取りを行う。
- ・原稿担当者を挟む理由は問題を集積して、校正の過程を効率化させる目的。
- ・理事会で話題になったシンポジウム原稿の締め切りは、来年度以降対応する見込み。

Q&A

- ・（山崎委員）JOGMEC 吉川氏が異動により地熱関係部署の情報にアクセス出来なくなった。原稿を辞退させていただくことができるか？
→（村上委員長）やむを得ないと判断。
- ・（矢島委員）今年の編集委員の生産技術委員会担当委員は誰になる予定？
→（岡野編集委員）未定だが、決定した後に連絡する。

6. 次回開催場所案内

	2024 予定		2023
第 1 回	5 月 9 日 (木)	JOGMEC (ハイブリッド)	JOGMEC (ハイブリッド)
第 2 回	7 月 4 日 (木)	INPEX	INPEX (ハイブリッド)
第 3 回	9 月 5 日 (木)	JX	JX (ハイブリッド)
第 4 回	11 月 1 日 (金)	東北大学	九州大学 (ハイブリッド)
第 5 回	12 月 6 日 (金)	秋田大学	京都大学 (ハイブリッド)
第 6 回	1 月 9 日 (木)	JOE	出光 (ハイブリッド)
第 7 回	3 月 6 日 (木)	JAPEX	JAPEX (ハイブリッド)

7. 話題提供

岩野原 CCS プロジェクト CO2 圧入井における圧入性の変化事例：INPEX 飯野委員

以上